

長野市議会と 上越市議会が交流

11月7日、2006年から定期的に交流していた長野市議会と上越市議会の交流会が市内で行われました。

これは、市民の間でも互いに往来のある両市の間で、議会としても交流し理解を深めようと、毎年行われてきたものですが、一昨年からはコロナ禍で中止されていました。今年は感染防止措置をとりながら3年ぶりの開催となりました。

両市議会は交互に両市を訪問し、それぞれの特徴的な事業や施設を見学するなど、理解を深めています。今年は長野市議会のメンバーが上越市を訪れ、上越消防署(上越地域消防局)と無印良品直江津を視察しました。

長野市では、2017年5月に中央消防署が移転・新築されています。上越消防局との違いなどを視察しました。また、無印良品直江津では、売り場



挨拶する長野市議会の
寺沢さゆり議長

面積約2,000坪の世界最大級となる店舗の現状と、県内だけでなく隣県からの来客を集めている様子を視察しました。

その後、両市議会の議員同士で親しく意見交換を行いました。

日本共産党上越市議員団ニュース
No.770 2022年11月13日
連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

あまりに理不尽

このことは、日本共産党の遠藤玲子県議や平良木議員など関係する市町村の議員が今年4月総務省の担当官と面談し、「あれだけの急な豪雪では、写真を一つ一つ準備することは現実的に困難。特に、土木業者ではない人は工事前後の写真を撮るという習慣がなく、準備できないのはやむを得ないことだ」「住宅がミシミシ言っている中

県はこれまで国に追加の説明をしてきたとしていますが、折り合っていないことですが、国による理不尽な算定を許さず、災害救助法の精神に基づいた適正な救助費支出を国に強く求めるべきです。

で、建物が破損してからは命に関わる。すべて緊急性の高い作業だ」と訴えて理解を求めてきました。しかし、国はそうした現場の訴えに耳を貸さず、杓子定規に判断したものと思われま。こうした理不尽な措置は許せません。

県はこうした国の姿勢を「付度」し、今年の豪雪では、積雪深が災害救助法基準を超える地域があつたにも拘わらず、法の適用を見送り、県条例の適用にとどめました。そのため、費用は県と市が折半で負担することになり、支援額も少なくなります。こうしたことが繰り返されるようでは、災害の際の負担が市民と基礎自治体に一方的に押しつけられることになります。

除雪費支援 国一部認めず

災害救助法適用地域の除雪費助成

2021年1月の豪雪で、国から支援を受けられるはずの災害救助法対象の除雪救助費約4億円のうち、約1億円が国に認められていないことが、県によって明らかになったと報道されました。(2日新潟日報)

災害救助法では、要援護世帯などの除雪費を県が助成した場合、国が半額を負担することになっていますが、この救助費が認められないのは異例のことで、国の監査が極端に厳格になったとみられます。県は、書類に除雪作業の写真が添付されていない例や、作業に緊急性があるか疑問とされた例が指摘されたとしています。

黒田小学校の子どもたちが議会を見学

上越市議会では、開かれた議会づくりの一環として、小中高校生向けの議会見学・学習事業を行っています。今年度は、上杉小、直江津小、清里小、黒田小、潮陵中、三和中の児童生徒による議会学習が計画されています。

このうち、黒田小6年生36人が11月7日、市役所5階議会フロアを訪れ、議場などを見学したり、議員に質問したりしました。この議会学習には石田議長と平良木議員が対応しました。

子どもたちは、「どうしたら議員になれ

るのですか」「議員は議会のない日は何をしていますのですか」「上越市で今一番大事なことは何ですか」「市内の公共施設を造るのに、どれぐらいのお金がかかっているのですか」などの質問や、「黒田小学校の周りには公園がありません。公園を造ってほしいと思います」「修学旅行で行った富山県には、スリーオンスリーができる屋外のバスケットコートがありました。上越にもそうしたコートがほしいです」などの要望を出しながら、熱心に学習しました。

その後、本会議場や傍聴席、委員会

室、議長室、議員控室、議会図書室などをくまなく見学しました。

この学習を機会に、議員の仕事や各議員がどんな考えで仕事をしているか興味を持ってもらいたいものです。

